

# 全国17万人が育てたひまわりが復興のシンボルとして福島の大地上へ

## 福島ひまわり里親プロジェクト

～福島と全国の絆作り～

### 効果

教育対策  
雇用対策  
観光対策



#### ①種の製造

震災で仕事が減少した福島の障がい者の作業所で種をパック詰め・全国へ販売



福島県二本松市NPO法人和で製造

#### ②全国で開花・種を福島へ

全国の里親さんが種を購入学校・企業など各地域で栽培採れた種を福島に送付



全国11万人、教育団体1,000校以上参加

#### ③福島に配布・開花

全国から届いた種は福島の学校などに無料配布。復興のシンボルとして開花



2015年、福島県内へ30,000袋以上配布

#### ③福島の種はエネルギーに

福島で採れた種は搾油後、バスのエネルギーとして使用2箇所の福祉作業所の仕事に



県内の種は搾油しバスのエネルギーとして使用

### プロジェクト発足のきっかけ

2011年3月11日に起こった東日本大震災は、福島県の障がい者福祉施設にも大きな影響をあたえました。



福島県二本松市のNPO法人和（なごみ）では、震災前までは土産の箱折りなどの軽作業をしていました。しかし、震災後、修学旅行などの教育旅行を中心に、福島へ観光に訪れる方が減少したため、お土産も売れなくなり、お仕事がなくなってしまいました。

そこで、プロジェクトでは、ひまわりの種のパック詰めを依頼。全国の皆さんに購入していただくことで新しいお仕事が生まれました。

現在では、福島県内で採れた種を油にする作業や、その油をバスのエネルギーに変換する作業なども福祉施設の障がい者のみなさんのお仕事になっています。

特定非営利活動法人チームふくしま 福島ひまわり里親プロジェクト事務局  
〒960-8055 福島県福島市野田町6丁目7-8 ツインコートB103

### 全国の学校で授業に活用 防災教育・道徳教育に

種を育てながら震災・防災を学ぶ授業や、他人を思いやる心を育む道徳の授業に活用されています。

・平成26,27年度 中学校公民副読本「ビジュアル公民2014,2015」、「見る、解く、納得! 公民資料2014,2015」掲載  
・平成27年度 福島県教育委員会発行 道徳資料集 掲載



### ひまわりを使ったイベントを開催 ひまわりが福島観光のきっかけに

全国から届いたひまわり畑での結婚式を開催。毎年、日本全国から、種を育てた皆さんが参加しています。

また、プロジェクトの取り組み成果発表会「ひまわり甲子園 全国大会」を福島で開催。各地方大会の代表者による感動の物語が語られています。



### 福島を同情的の街から、尊敬の街に

広島平和記念公園の折鶴のように、福島復興祈念公園のひまわりとして震災があったからこそ、子どもたちが修学旅行に訪れる街にしていきます。

2011年5月 スタート



福島ひまわり里親プロジェクトとは?  
2011年3月に発生した東日本大震災後、福島県に「復興のシンボル」としてひまわりを植えよう」と始まった活動です。



種を買ったおともだちのもとへ種を送ります。これは知的作業所のみなさんの「仕事」になります。

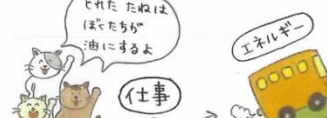


日本全国各地のおともだちに種が届きます。これから種を植えて、みんながそれぞれの住む場所でひまわりを育てます。



ひまわりがさいて種がとれたら...

絆 風化対策  
種とよに届いた種や、手紙や、写真は郵便局や、信用金庫、駅などいろいろな場所で展示されています。飯坂電車内で貸し出し展示も行われました。



とれたたねはほぐして油にするよ  
仕事  
エネルギー



福島にたくさんのひまわりがさいて、大きなひまわりばたけもできました。全国のおともだちがひまわりを見て福島に「観光」にも来てくれます。



みなさんが届いた種を福島の駅や、旅館、お店、お茶室、幼稚園、小・中学校、高校、公園など、たくさんの方々に届けて育てます。



今までに10万人以上のおともだちが、5トン以上のひまわりの種を送ってくれました。みんなの思いが、たびくまちゃん、福島のみなさんに届きます。



たびくまのひまわり種を送ります。家族で、地域で、学校で、ひまわりを育て種を送ってくるおともだちもいます。